

平成30年1月11日 北海道地方路線問題調査特別委員会 開催状況

開催年月日 平成30年1月11日

質問者 公明党 吉井 透 委員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質問要旨	答弁要旨
<p>一 JR北海道の事業範囲の見直しについて</p> <p>(一) 要請内容の実現について</p> <p>昨年12月18日に、石井国土交通大臣への要請が行われて、国の抜本的な支援を求めるためのスタートラインに立つことが出来たものと思っております。</p> <p>今回の要請の中では、本道における持続可能な鉄道網の確立を目指すため、これまでよりも一歩踏み込んだ提案がなされたと思っておりますが、しかし、提案された内容を具現化していくためには、国をはじめ、自治体からの理解と協力が欠かせないものと思っております。</p> <p>道としては、今後どのように国との協議に臨み、地域からの協力を引き出していこうとするのかお伺いいたします。</p> <p>(二) 鉄道ネットワーク・ワーキングチームフォローアップ会議の開催について</p> <p>昨年示された、道の新たな交通政策指針の中には、各地域におけるJRの記載が盛り込まれておらず、今後開催される鉄道ネットワーク・ワーキングチームフォローアップ会議で集中審議が開催されるものと承知しておりますが、今後、いつまでに、またどのような議論を進めていくのかお伺いします。</p> <p>(三) 新たな指針における将来の鉄道網について</p> <p>鉄道ネットワーク・ワーキングチームフォローアップ会議で議論された結果が、新たな交通政策指針に盛り込まれることとなりますけれども、どのような内容が盛り込まれるのか、大きな注目が集まっていると思います。一方で、この指針に記載される内容については、地域で行われている協議に大きな影響を及ぼすものと考えています。</p> <p>新たな指針の中に、鉄道のあり方をどのように盛り込むとするのか、また、各地域からの意見を踏まえたものとするべきと思いますがこれについて所見を伺います。</p> <p>これについては、今後の議論はしっかり注視をさせていただきたいと思っております。</p>	<p>【交通政策局長】</p> <p>道の取組についてでございますが、道では、昨年12月18日に、本委員会の喜多委員長をはじめ、市長会、町村会などの皆様と、本道における持続的な鉄道網の確立について、国に対し、要請を行ったところでございます。</p> <p>道といたしましては、JRの自助努力を前提とし、国の実効ある支援とともに、道と市町村が一体となって可能な限りの支援、協力を行っていくとの考えのもと、北海道高速鉄道開発株式会社の枠組みを参考に、JRが実施する、利便性や快適性の向上に向けた設備投資や修繕などの取組に対して支援を行っていく考えであり、今後、道議会でのご議論や、地域における検討状況を踏まえながら、具体的な支援のあり方についてさらに検討を進めてまいります。以上でございます。</p> <p>【鉄道交通担当課長】</p> <p>鉄道ワーキングチームフォローアップ会議についてでございますが、道では、鉄道網のあり方について、明後日13日に開催するフォローアップ会議を皮切りに、有識者や市長会・町村会、JR北海道などとともに、集中審議を行う予定であり、地域における検討・協議の状況や、鉄道ワーキングチームの報告で示された鉄道網の6類型を踏まえながら、将来を見据えた鉄道網のあり方について、議論を深め、取りまとめを急いでまいります。</p> <p>【交通ネットワーク担当課長】</p> <p>鉄道網のあり方についてでございますが、道では、これまで、地域における検討・協議の場に有識者と共に参加し、道が有する様々な情報を提供しながら、地域の最適な公共交通ネットワークのあり方について、関係市町村と検討を積み重ねてきているところであります。</p> <p>道としては、鉄道網のあり方について、鉄道ワーキングチーム・フォローアップ会議において集中審議を行うとともに、地域における検討・協議の状況を踏まえつつ、運輸交通審議会や道議会でご議論をいただきながら、取りまとめている考えでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 地域の協議について</p> <p>JRの事業範囲の見直しに関わる地域協議、線区によっては、バスも含めた最適な交通体系の検討や今後の路線維持に向けて、費用負担を含めて道とともに検討していくとする地域も出てきています。全体としては、協議が進みつつあるものと認識をしておりますが、地域に負担を求めるためには、JRがどれだけ自助努力で負担をできるかが、地域への説明のベースになるのであると思っております。この点について道の受け止めに伺います。</p> <p>【再質問】</p> <p>ただいまJRの経営改革に全力を尽くすことが大事であるというご答弁をいただきましたけれども、地域に負担を求める以上、地域が十分に納得できるよう、JRが自助努力を行った上で、地域が納得できる根拠を示せるかが大事なポイントとなると思います。道もそうした情報がなければ、地域の協議を進めることは難しいのではないかと思います。この点、改めて道の考えを伺います。</p> <p>(五) 今後のスケジュールについて</p> <p>知事は、JR北海道の事業範囲の見直しについては、7月までが勝負となると言っております。我が会派としても、8月の概算要求が大きなターニングポイントとなるものと思っておりますが、今後精力的に、昨年の要請を踏まえた対応を検討していかなければならないと思っておりますが、新たな指針も含めて、今後どのようなスケジュールで、JR問題に対応していこうとしているのか伺います。</p>	<p>【鉄道交通担当課長】</p> <p>JR北海道の経営努力についてであります。JRの経営再生と持続的な鉄道網の確立に向けては、JR自らが、グループ企業も含めた徹底した自助努力と経営改革に全力を尽くすことが必要不可欠でございます。</p> <p>道としては、先月、国に対して、JRに対する指導の徹底を求めたところでございますが、今後とも、JRに対し、鉄道事業以外の収益を見込める新たな事業を戦略的に育てていくなど、収益拡大に向けた取組を積極的に行うとともに、地域での検討・協議の場などにおいて十分な説明を行うよう、強く求めてまいります。</p> <p>【鉄道交通担当課長】</p> <p>JR北海道の経営努力についてであります。道では、先月、国に対して、JR自らが、グループ全体を含めた徹底した自助努力に取り組むとともに、経営状態の開示を行うことで、道民や関係自治体の皆様の理解を得るようJRに対する指導の徹底を求めたところでJRに対する指導の徹底を求めたところでございます。</p> <p>道としては、今後とも、JRに対し、鉄道事業以外の収益を見込める新たな事業を戦略的に育てていくなど、収益拡大に向けた取組を積極的に行うとともに、地域での検討・協議の場などにおいて十分な説明を行うよう、強く求めてまいります。</p> <p>【交通企画監】</p> <p>今後の対応についてでございますが、JR北海道の経営再生と持続的な鉄道網の確立に向けましては、JRの徹底した自助努力を前提として、国の実効ある支援と、地域の実情に応じた方策が一体的に講じられることが重要と考えてございます。</p> <p>道といたしましては、引き続き、JRに対して、経営の多角化など収益拡大に向けた取組を積極的に行うよう強く求めてまいりますとともに、鉄道網のあり方について、明後日13日に開催いたします鉄道ワーキングチーム・フォローアップ会議を皮切りに、集中審議をいただく考えでございます。</p> <p>また、地域におけます検討・協議の状況を踏まえつつ、運輸交通審議会や道議会でご議論いただきながら、道の交通政策の新たな指針を年度内に取りまとめる考えでございます。こうした指針の検討状況などについては、地域の皆様に丁寧に情報提供を行いながら、道と沿線自治体が一体となって議論を加速させ、また、関係機関と連携を図りながら、鉄道網を含む公共交通ネットワークと地域交通の確保に向け、より一層、積極的に取り組んでまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>道民や地域が納得できる鉄道網、交通の方向性を見だしていくということがこの議論の非常に大事な役目になるというふうに思います。必要な情報を速やかに開示し、整理して、議論の加速化、積極的な対応が大事であるということでもありますので、この点、改めて確認をさせていただきます、お願いさせていただきます、質問を終わります。</p>	